

あいかぜとしよかん

厚田小学校に開設した「あいかぜとしよかん」オープンセレモニーは子どもたちの「うんとこしょ、どっこいしょ」の大きな掛け声とともに、子ども代表や校長先生の手によって扉が開いた。初めて入った図書館に大きな歓声が上がった。可能性をより高めたいとする関係者の喜びを、同時に感じることができた瞬間でもあった。▼鉛色の冬の海が似合う厚田、この厳しき故に子母澤寛を代表とする厚田文学が生まれ、その偉人を誕生させた。そのことを地域の誇りとし、故郷のプライドとなつている。校長先生のあいさつは35年前に教職員が始めた「やちだも文庫」に触れ、図書館の開設にふさわしい地域へのメッセージでもあった。▼入り口に子母澤寛作「厚田日記」の原稿が展示されていた。何気なしに松山善三作「厚田村」の映画化について尋ねてみると、その日の内に脚本が届いた。元厚田区長からの寄贈である。まだまだ未発見の史資料はあるはず。ここは日曜日も開かれている地域図書館でもある。さまざまな情報が交差し歴史のさらなる深掘りが始まるであろう。個性を強くもっている旧厚田村を、次の世代へ伝えるのも図書館の大切な役割である。誰もが集う居場所となることを願ってやまない。(市長)

広告